

令和3年 1月「月報」

1 はじめに



令和3年(2021)

明けましておめでとうございます。

家族会の皆様におかれましては、新年を清々しく迎えられたこととお慶び申し上げます。

令和3年は、干支では辛丑（かのと・うし）、十二支では丑（うし）年で、ネット上では「痛みを伴う衰退と、新たな息吹が互いに増強し合う年になりそうだ」とあります。昨年のコロナ禍にあって、従来の延長線上で衰退したもの（企業、製品等）と新たな発想で興隆したものがあつたことが思い起こされます。

もしかしたらコロナ感染は、神様が人間社会に与えた次世代に生き残るための試練かもしれません。コロナ襲来の波が訪れるたびに、命の安全策と経済の立て直し策のバランスが行政から個人に至るまで試されているように思います。

自衛隊も、昨年はコロナに振り回された1年でした。部隊・隊員の海外派遣に際しては、約2週間の経過期間を経た後PCR検査を行い、感染者がいないことを確認した上で目的地へ出発するという手間のかかる手順を取らざるを得ず、関係部隊にとっては大きな負担と制約となりました。

本会も、防衛講演会等の活動に際して、コロナ感染予防ガイドラインに沿った会場面積に応ずる聴講者数に限定せざるを得ず、それぞれの主催家族会の悩みでした。

しかしながら、神様が与えた唯一の救いの手は、コロナ対策をしっかりと行えば、感染者を一人も発生させないことです。クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の感染者対策、中央病院等での感染者の治療、各地の医療機関への看護官等の災害派遣、そして海外派遣活動等において、自衛隊は1名の感染者も出していません。

本会も、防衛講演会、3項（家族会の活動）で紹介の各地の防衛講話や入隊・入校予定者説明会（激励会）等の活動において感染者の報告を受けていません。

平成29年1月に家族会へ名称変更してから5年目を迎える本会は、コロナ禍にあって困難な活動を行う自衛隊への感謝と敬意を表しつつ、「隊員に最も身近な会」として、「コツコツと努力する」丑（牛）のように引き続き自衛隊の諸活動を支援して参ります。各県家族会の皆様には、本年もご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 令和3年度予算

政府は、昨年12月18日、過去最大の総額10兆6、097億円の来年度当初予算案を閣議決定しました。このうち防衛予算は、9年連続で増加し過去最大の**5兆3、422億円（対前年度比+289億円）**となっています。

30防衛大綱及び中期防の3年目として、「真に実効的な防衛力として、多次元統合防衛力の構築に向け、防衛力整備を着実に実施」を掲げています。

(細部は、防衛省HPをご参照下さい。)

(2) 令和2年度第3次補正予算

政府は、昨年12月18日の閣議において、総額3,867億円の令和2年度第3次補正予算(防衛省関係分)を決定しました。

各種災害への対処能力の強化、自衛隊のインフラ基盤の強化、安定的な運用体制の確保などのための経費が主たる内容です。

(3) 北海道及び大阪府における新型コロナウイルスに係る災害派遣

ア 昨年11月以降、旭川市内の医療機関で新型コロナウイルスに係るクラスターが発生し、医療機関の態勢がひっ迫しているため、北海道知事からの医療支援に係る災害派遣要請を受けた前田北部方面総監は、12月8日、医療支援支援チーム(看護官等5名)×2を2か所の医療機関に派遣を命じ、医療支援(医師の診療補助、検温、入院患者の看護等)を実施し、21日をもって撤収しました。



医療支援を行う看護官(旭川)

イ 11月以降、大阪府における新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、医療態勢がひっ迫したため、大阪府知事からの災害派遣要請に基づき、12月14日、野澤中部方面総監が医療支援チーム3名(看護官等)×1チーム、4名(看護官等)×1チームをそれぞれ2つの医療センターに派遣を命じ、医療支援(人工呼吸器の管理・取り扱い、検温、入院患者の看護等)を実施し、28日をもって撤収をしました。



岸防衛大臣に出発報告する看護官

派遣に先立ち、11日、大阪府に派遣される防衛医科大学校病院の看護官が岸防衛大臣へ出発報告をしました。

(4) 令和2年秋の叙勲受賞

昨年11月3日、秋の叙勲受章者の発表があり、下記2名の会員が藍綬褒章(募集相談員としての功績)を受章されました。

○石谷 和也(兵庫県家族会 常務理事)

○高谷 由見(東京都家族会 三多摩地区協議会長)

(5) 令和2年度防衛大臣感謝状及び各幕僚長感謝状受章

自衛隊記念日中央行事の一つで、防衛基盤の育成や隊員募集・就職援護などに貢献した団体・個人を表彰する令和2年度感謝状贈呈式がそれぞれ行われ、次の会員に贈呈されました。

ア 防衛大臣感謝状

- 江藤 勝彦（自衛隊家族会 九州・沖縄地域協議会会長）
- 富田 圭俊（札幌自衛隊家族会 喜茂別支部長）
- 米田 利平（京都府自衛隊家族会 舞鶴自衛隊家族会会長）

イ 各幕僚長感謝状

（ア）陸幕長感謝状

- 浦田 正（長崎県自衛隊家族会会長）

（イ）空幕長感謝状

- 工藤 祐一（青森県自衛隊家族会 つがる市自衛隊家族会会長）
- 澤田 正夫（道南自衛隊家族会 奥尻町支部長）

（※海幕長感謝状については、該当者がありませんでした。）

3 家族会の活動

（1）中東地域における情報収集活動部隊（4次隊）への激励（青森県家族会）

12月16日、青森県自衛隊家族会（野呂和生会長）は、海自大湊地方隊（むつ市）において、中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動のために派遣される水上部隊（第4次隊）の指揮官である第7護衛隊司令（西村敏行1等海佐）及び護衛艦「すずなみ」艦長（山口達2等海佐）に対し、本会からの激励品を贈呈しました。



大湊地方総監部管理部長木内1等海佐に激励品を贈呈する野呂青森県会長（中央）

（2）第15次派遣海賊対処行動支援隊への激励（高知県家族会）



大川内支援隊長に激励品を贈呈する原高知県会長

12月18日、高知県家族会（原洋吾会長）は、陸自高知駐屯地において、海賊対処行動支援隊として派遣される第50普通科連隊基幹要員への本会からの激励品を支隊長の大川内1等陸尉に贈呈しました。

（3）入隊予定者及び家族への説明会（静岡県家族会）

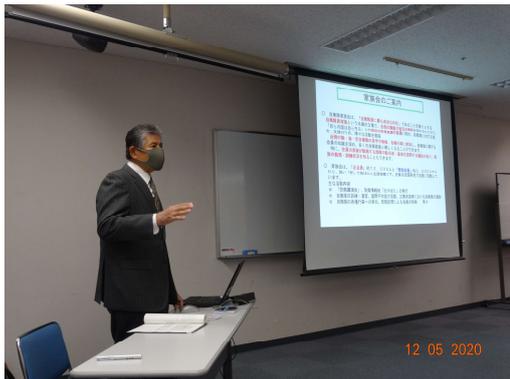
静岡県家族会（鈴木裕治会長）は、コロナ禍の中、静岡地本（杉谷1等空佐）が主催する入隊予定者説明会に下表のとおり参加し、本説明会を通じ、入隊者の不安感の除去に努めるとともに家族会入会パンフレットを活用し家族会への入会案内を行

いました。

12月6日（日）は、地域防災訓練の日で、当初西部浜松地域では説明者の人選ができず苦劳しましたが、コロナ感染の影響で防災訓練が中止となり、うまく実行できました。その場で入会したいと入会意識調査票を提出して頂けるご家族もいて、

日 時	場 所	対象ご家族	説明者（家族会）
12月 5日（土）	中部静岡地区 静岡ツインメッセ	64家族	鈴木裕治県会長×2回説明 小出修道県事務局長同席
12月 6日（日）	東部沼津地域 沼津地域事務所	49家族	長沢一幸県副会長×1回 遠藤直人東部地域事務局長×2回
12月 6日（日）	西武浜松地域 浜松合同庁舎	62家族	小林三二県常任理事（浜松地区会長） （陸）×3回 大石和典理事（海・空）×3回
計		175家族	8回 説明実施

有意義な説明会となりました。



家族会について説明する鈴木静岡県会長



入隊予定者へ説明する小林浜松地区会長

（4）「合格者及び保護者の不安を払拭！」保護者説明会を支援（札幌家族会）

12月20日、札幌自衛隊家族会東区支部（藤田恵子支部長）は、札幌市内のホテルにおいて札幌地方協力本部が企画した「自衛隊合格者・保護者説明会」に、札幌家族会の10支部に所属する女性会員10名とともに参加して、本年度自衛隊採用試験合格者とその保護者に対し、不安や疑問を解消し安心して入隊の意志を固めて貰う企画に参加しました。

大雪という悪天候にも拘わらず80名が参加し、懇談では保護者を陸・海・空の小グループに区分し、1～3年前に子供が入隊したお母さん達が聞き役となって保護者らの気持ちに寄り添いながら、親身になって相談を受けました。



入隊者の親としての気持ちを分かちあったり、帰省するたびに成長していく子供の話をしたりと、各グループ共、和やかな雰囲気です。懇談が行われ、参加者の「知りたい」に応えることができ、不安払拭の一助になれたと思います。

親身になって相談を受ける女性会員

(5) 令和2年度採用予定者及び家族との懇談会を支援（道南家族会）

12月13日、道南家族会（杉本幹雄会長）は、函館地方協力本部が主催する採用予定者及び家族との懇談会に参加しました。入隊直後の隊員の生活環境や心境等についての質問に対し、自衛官OBの会員が自己の体験談披露や教育期間中の生活環境等を丁寧に説明し、ご家族の不安解消に努めました。



採用予定者家族へ丁寧に説明する会員

(6) 防衛講話の開催

ア コロナ禍での防衛講話開催（鳥取県家族会）

12月13日、鳥取県家族会（前田節夫会長）は、県主催の防衛講話を開催しました。新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って、3密を避けるため聴講者を最大40名に限定、講師に鳥取地方協力本部長（村岡正智 1等空佐）をお迎えし、「自衛隊の過去・現在・そして未来」という演題で、これまで勤務した土地と自衛隊の紹介を話して頂きました。また、女性活躍の場も拡大しており、このため女性に選んで貰える組織にならなければいけないなど丁寧に話して頂き家族会にとって大変有益な講話でした。



防衛講話の様子（田中事務局長撮影）

イ 「第3回肩の凝らない講話会」を開催（兵庫県伊丹家族会）

12月5日、伊丹自衛隊家族会（鍋山憲一会長）は、伊丹市内のスワンホールにおいて「第3回肩の凝らない講話会」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため参加人数を制限した上で、3密を避け、ソーシャ

ルディスタンスを維持するなど感染症対策に万全を期して行いました。

講師に兵庫地方協力本部募集課長 岡林 2等海佐をお迎えし、海上自衛隊の教育体系と教育の現状を主に、潜水艦艦長としての勤務経験を踏まえて潜水艦部隊の実情等を実例を交えて講話され、会員にとって有意義で貴重な一日となりました。



肩の凝らない講話会の様子

(7) 「奈良県自衛隊フェア2020」に参加(奈良県家族会)

11月29日、奈良県家族会(河本順雄会長)は、奈良県主催、五條市及び奈良地方協力本部共催の「奈良県自衛隊フェア2020」に後援団体として参加しました。

全国で唯一陸自の駐屯地がなく自衛隊との接点が少ない奈良県において、自衛隊に関する意識向上を目的として五條市上野公園で開催されたもので、家族会は受付を担当しました。

当日は好天に恵まれ、他府県からも含め約3千人が来場、展示装備品を興味深く観察するとともに、ブースなどで自衛官との交流を図るなど、いずれも関心の高さを示していました。



会員による受付での検温

(8) 厳しい状況下での部隊研修(大阪府家族会)

11月19日、大阪府家族会(山本卓嗣会長)は、信太山駐屯地における戦闘訓練を会員30名が研修しました。

コロナの影響で大阪府家族会(福岡絢子前会長)は、予定の事業もできず、地区会、会員とも向き合えずに忸怩たる思いでしたが、信太山駐屯地司令(山田1等陸佐)のご配慮により研修の機会を頂きました。

会員にとっては、戦闘訓練は初めての研修で緊張しましたが、このような厳しい訓練を日々行い、体力錬成に努め国民の負託に応えられるように努力しているのだと納得し、本年度初の有意義な部隊研修となりました。



コロナ禍での部隊研修に満足の会員